

第6回 安心・つながりプロジェクトチーム 会議 議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和7年7月2日（水）14：25～15：25
2. 場 所：豊中市社会福祉協議会会議室
3. 出席者（構成員）：
石田 光規 早稲田大学文学学術院文化構想学部教授
大西 連 内閣府孤独・孤立対策推進参与
（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい理事長）
勝部 麗子 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会 事務局長

(議事次第)

1. 開会
・三原内閣府特命担当大臣挨拶
2. 議事
・有識者ヒアリング
・視察の振り返り
・とりまとめ構成案に係る意見交換
3. 閉会

(配布資料)

- 資料1 豊中市役所提出資料
資料2 とりまとめ構成案

参考資料1 単身高齢者等の孤独・孤立の予防に向けた論点

（第5回安心・つながりプロジェクトチーム参考資料）

参考資料2 安心・つながりプロジェクトチームにおけるこれまでの御意見

○大西参与 第6回の「安心・つながりプロジェクトチーム会合」を始めたいと思います。帰りの飛行機の時間がございますので、15時25分には終わらなければいけないということで進めていければと思います。

ただいまから、第6回「安心・つながりプロジェクトチーム会合」を開催いたします。

それでは、三原大臣より、御挨拶をいただきたいと思います。大臣、お願いします。

○三原孤独・孤立対策担当大臣 お疲れさまです。今回6回目ということで豊中市での開催となります。豊中市におきましては、地域の皆さんによる地道な活動というのが展開されてきて、それに加えてヤマト運輸、そして郵便局との地域での見守り活動、これが連携するなど、企業と連携した取組も行っていると伺っております。

今日は、御多忙の中、豊中市役所の森本課長をはじめ、担当部署から皆さんお越しいただいております。ありがとうございます。豊中市の取組について、是非教えていただければと思います。

そして、今日は視察をさせていただきまして、いろいろなお話を聞かせていただきました。この視察に関して、皆様からも御意見を聞かせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○大西参与 よろしく申し上げます。続いて、友納政務官、お願いいたします。

○友納政務官 政務官の友納でございます。

今日は、皆様、このような時間をお取りいただきまして、ありがとうございます。

今、豊中市を見させていただきまして、最初は社協の副会長さんが必要とする方を発見して少し手を差し伸べるというのが、自分たちのお仕事だとおっしゃっていて、まさに、私たちは受援力というものをどう強化していけばいいかという話をしているかと思いますが、やはり発見して、その少しというのがすごいなと思って聞いていたのですけれども、やはり御本人の力を引き出すというか、上から支援するのではなくて、互いに協力し合うのだという視点で、やはり皆さんは活動していただいているのかなというところは、すごく感銘を受けて聞いておりました。

各論としては、先ほどのマンションの考え方のノウハウがないとか、あと学校と福祉の連携とか、あと、本当は手段が目的になることはよくないのですが、ただ、必然性があり、喜ばれるアウトリーチをしていく中でという、先ほどの勝部先生のお話とかも、結構手段が重要になるときもあるのだなということを思いながら聞いておりました。

今日も、これから皆さんとお話をさせていただく中で、いろいろな気づきがあるかと思いますが、いろいろと教えていただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○大西参与 友納政務官、ありがとうございます。

それでは、配付資料の確認と、委員の出欠状況について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 配付資料でございますが、資料の1、2及び参考資料の1、2となります。不

足がございましたら、事務局までお知らせいただければと思います。

次に、構成員の出欠状況でございますが、本日は大西参与、石田構成員、勝部構成員の全員に御出席をいただいております。以上でございます。

○大西参与 ありがとうございます。それでは、早速議事に入ってまいります。

本日は、まず、豊中市から小学校区を単位とした地域自治の取組及びヤマト運輸や郵便局と連携した見守り体制の整備をテーマにヒアリングを行いたいと思います。

豊中市からは市民協働部地域連携課主幹の松本様、福祉部の長寿安心課長の森本様、同課長補佐の島田様にお越しをいただいております。それでは、御説明よろしく願いいたします。

○豊中市（市民協働部地域連携課） それでは、こちらの分厚目の資料を用いて説明させていただきます。

ページ番号の3ページ目、4ページ目が当課のほうからの説明になります。

3ページ目を御覧いただきましたら、小学校区を単位とした地域づくりとして、豊中では、地域自治組織という制度を運用しております。

また、昨年度、地方自治法が改正されまして、指定地域共同活動団体制度が創設されましたけれども、その際に国から、先進事例として御紹介いただいております。

豊中市では、平成24年4月に豊中市地域自治推進条例を施行しまして、複雑化する地域課題に対して、小学校区にある様々な団体が個別に対応するのではなく、専門性を持った団体の皆さんが1つのテーブルに座って話し合う地域自治組織の取組を進めています。

この取組は、全市一斉ではなく、地域のペースに合わせて市職員が伴走し、地域の皆さんが中心となり、誰もが参加できる仕組み、それぞれの地域の特徴に合った手法で時代に合った地域づくりを進め、地域が活性化していくことを大切にしております。

資料の中央のほうに、地域自治組織の設立に向けたステップと、段階に応じた市の支援内容を記載しています。

出前講座等の機会をきっかけに、地域の状況、情報を収集し、関係人口の創出として、校区内事業者にヒアリングを行います。

また、今、一番ホットな取組として「地域の大会議」というネーミングのワークショップを開催しています。

ここでは、参加される方がフラットな立場で、校区のいいところ、気になるところを出し合います。先日開催した際には、思い、考えがシェアできたこと、今後への期待感で大変盛り上がりを見せました。

次の4ページ目を御覧ください。

ここでは、現在の状況をマップでお示ししています。豊中は今、小学校区は41ございますけれども、12校区、次年度設立予定が4校区という状況です。

41分の12ですから、まだまだそんなものかという感じがしますけれども、ただ、今ある取組で連携が図れている校区があったり、なかなか校区の中で各団体さんの話し合いがま

とまらなかつたり、新しいことに取り組む体力がないという、そういう校区もございます。

ただ、この3つ目の体力が低下している校区、ここをリニューアルすることが責務と考えています。

次に、その右のほうに、地域自治組織の活動を書き出しております。資料の中段のイベント開催の1つ目に、盆踊りの復活を書いております。これは、地域の皆さんが昔楽しかった思い出を話し合う中、今の子供たちにも経験させてあげたいとの発案で、30代から50代のメンバーが中心となって企画されるもので、探し回ってようやく見つけた音源であったり、また、複数の自治会さんが保存していたお祭り道具、こういったものを持ち合って、今月には踊りの練習会を2回開催して、8月に本番を迎えるという、こういった取組を通じて地域が1つになるパワーを感じております。

最後に、地域自治組織の設立の成果としましては、市からの交付金を原資に多様な取組を展開されておりまして、情報の共有化や、人と人が出会う機会を設けることで、緩やかな見守り、新たな人材の発掘につながっていると伺っております。

地域のことを一番よく知る住民が必要な取組を話し合い、協力しながら進める1つの手法が豊中スタイル地域自治組織になります。

以上で説明を終わります。

○豊中市（福祉部長寿安心課） 続きまして、ICT見守りサービス事業について、御説明させていただきます。資料の6ページを御覧ください。

こちらのICT見守りサービスですが、豊中市では、独り暮らしの高齢者が年々増加する中、独り暮らしの高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、ICTを活用した見守りサービスを令和4年3月に開始いたしました。

公募型プロポーザルの結果、ヤマト運輸のハローライトを活用した見守りサービスを採用し、市内在住の65歳以上の人を対象に、電球の点灯、消灯の動きが24時間に一度もない場合、事前に設定した緊急連絡先にメールで異常を通知するという仕組みで行ってまいりました。

事業のポイントでは、家族などが訪問できない場合は、ヤマト運輸のスタッフが代理訪問で状況を確認し、必要に応じて救急、消防を呼んだりしてくれるところと、1件当たり毎月1,210円が委託費なのですけれども、その費用は全額市負担ということで、無料で高齢者の方が利用できるという点にあります。

続きまして、次のページですが、利用の状況ですが、令和7年3月末時点で、916の方に御利用いただいている状況です。独り暮らし高齢者は年々増加しておりますので、サービスの利用者も右側のグラフのとおり増加しております。正直、使われる方には、施設に入られる前とか、お亡くなりになられる前の方も多いので、廃止の方も多いのですけれども、それ以上に、利用の方が増えているかなというのを実感しております。

効果といたしましては、異常メールの通知を受けて駆けつけると、御家族が熱中症で倒

れていた、救急車を呼んで命を救うことができた、家族から感謝のお電話をいただいたりと、高齢者だけでなく、家族の安心にもつながっていることを実感しています。

また、代理訪問で状況を確認したところ、応答がないため消防・警察を呼び、救急車で搬送されたりと、地域の民生委員の方々が地域の見守り活動を行っているところや、私たち職員が安否確認業務でやっていることの代わりとして、負担軽減にもつながっていると思っております。

一方、課題としては、サービスの利用にメールが届く緊急連絡先が必ず必要なため、身寄りのない高齢者は利用しにくいということが当初からの課題となっておりまして、その課題を解決するために、8ページ、今年度から新たにサービスを拡充する予定にしております。

課題としては、身寄りがなく申請ができなかったり、民生委員やケアマネジャーに緊急連絡先となっていたいたのですが、負担が大きいということで、途中でサービスをやめたいと御本人が言われる方もいたり、あと、緊急連絡先となる家族が高齢者で、そこに連絡したら御家族も入院していたというケースがありました。そこを何とかできないかなということで、身寄りのない高齢者の緊急連絡先となる事業を立ち上げ、事業者を募集していきまして、その事業者にかかる費用を補助金として支払うというスキームを、この8月から開始する予定にしております。

実施内容としては、緊急連絡先の確保が難しい人に、このサービス利用に必要な緊急連絡先としての業務をやっていただくということで、異常通知時の対応であるとか、あと、そういう方は、結構入院したときとか、お亡くなりになられたときのことの課題もあるので、終活の相談というところも業務の内容でしていただくということで、事業者にはお願いしているところです。

対象者は、こちらに書いてある身寄りのない方とか、身寄りはあるけれども疎遠になられて、緊急連絡先となってくれる方がない方ということを対象にしています。

補助上限額は、こちらに記載のとおりですが、今、事業者様のちょうど提案の時期で応募をいただいているのですけれども、やはり自己負担がない形で、今年度は事業を実施できるのではないかなと思っております。

これをきっかけに、独り暮らしの高齢者、身寄りのない方も含めて、安心して住んでいただけるような対応ができればと思っております。

9ページの次のページは、参考にジチタイワークスに掲載されたものを載せていますので、説明を割愛させていただきます。以上です。

○豊中市（福祉部長寿安心課）では、続きまして、資料②-2、郵便局と連携した見守り体制について、御説明させていただきます。1枚めくりまして11ページ目です。

豊中市では、日本郵便株式会社と包括的連携協定を令和2年度に締結しておりまして、定期的に認知症サポーター養成講座を受講していただいているほか、業務中の気づきを、制度や相談機関につなぐといった形で地域における見守り活動に御協力をいただいております。

ます。

例えば、豊中市では安否確認ホットラインという事業がございまして、独り暮らし高齢者などの生活に異変を感じた場合、地域住民の皆さんなどから連絡を受けて、市が関係機関と連携して安否を確認しております。

郵便局の皆様には郵便配達時に、例えば、郵便ポストに郵便物がすごくたまっているとといった気づきのところを、こちらの安否確認ホットラインのほうにつないでいただいて、市のほうで安全を確認するという形での活動がございます。

また、家庭の訪問時に気づかれた場合には、地域包括支援センターや障害者支援センターといった相談支援機関のほうに御連絡をいただき、個別支援が始まるケースもございます。

続きまして、次のページです。そのほか、徘徊で行方不明になるおそれのある方に御利用いただける見守りステッカーの販売に郵便局にも御協力いただいているほか、直接的な見守りではございませんが、各種事業周知であったり、市内44か所の郵便局に、今、熱中症がすごく、今日も暑かったと思うのですけれども、郵便局の皆さんのクールスポットとして、市民に涼をとっていただけるような御協力をいただいたりしております。

簡単ではございますが、郵便局と連携しました見守り体制についての説明は、以上でございます。

○大西参与 ありがとうございます。

3つ御説明をいただきまして、かなり盛りだくさんな内容をぎゅっとしていただいております。ありがとうございます。

ただいまの御発表に対して、委員の皆様、もしくは大臣、政務官、御質問がある方は、ぜひ挙手をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。いろいろな論点があるかなと思いつつ、お願いします。

○石田構成員 2点お願いいたします。

まず、地域自治についてなのですが、午前中の豊中市社会福祉協議会からのヒアリングのほうでもマンションに住んでいる方は、なかなか大変みたいなことを耳にしまして、41小学校区があって12区が地域自治組織を形成されていたということなのですけれども、やはり結成されるところ、そうではないところみたいな特性があるのかどうかということをお伺いできればということが1つ目。

もう一つは、ICTに関してと、郵便局に関してというのは、恐らく何かがあったときに早期に発見できるシステムなのかなと思うのです。今回のプロジェクトでは、何かがあったときに早期に発見したという場合には、結構いろいろなところで体制はつくられているので、その前に何か、それこそシステムにあまり頼らなくてもつながれるような、そういう仕組みがあったりしないものかなということも考えているわけなのですけれども、実際、自治体として、そのようなことをなさっているのかどうかということをお教えいただけますか。

○豊中市（市民協働部地域連携課） では、まず、地域自治組織に関することについてお答えさせていただきます。

地域自治組織は結成したところと、しないところがありますけれども、結成したところは、資料の説明のように、地域がまとまり順調にステップに乗ったという感じです。結成しないところも、実は、様々なパターンに分かれまして、例えば、校区をよくする会という会がある校区であったり、子供の安全・安心を守るための会が既にあったり、このように今ある枠組みでうまくいっているところは、地域自治組織にならないというパターンがあります。

あとは、もう何年も御検討いただいていますけれども、なかなか校区団体さんが、あまり仲がよろしくなくて話がまとまらないというのもありました。そうした中でも話をまとめ上げるのが、私たちの仕事ではありますし、また、今の時代は、校区団体さん、自治会の加入率も減ってきてまして、本当地域の体力がなくなっている。話を持っていっても、リーダーシップを取られる方がいないとか、でも、本当にここを何とかしないと、今、当たり前にできている地域活動がこの先できなくなるのではないかという懸念、そういう危機感を覚えていまして、ここについては、もっと取り組んでいきたいと考えているのですけれども、そこはすごく課題と感じております。

○大西参与 やはり、いわゆるキーパーソンですとか、勝部さんのようなリーダーシップのある方というのがいらっしゃる地区だと話というのはまとまっていきやすいものなのですか。

○豊中市（市民協働部地域連携課） そうですね、今、立ち上がっている12校区は全て、やはり強力なリーダーシップのある方がおられまして、その方の声かけで、さっと立ち上がりました。

○石田構成員 よく地域の調査をしていると、それこそ昔ながらの方が住んでいる場所などは、そういった方々は、結構ネットワークをたくさん持っていたりだとか、地域のことをたくさん知っているので、そういう人が動くと、ぱっとまとまったりとかをするのですけれども、そういう特性はあったりするのですか。

○豊中市（市民協働部地域連携課） そうですね、ただ、かつてお力を持っておられた方も、年を重ねられて、発言力も低下し、かといってその人に代わる人がなかなか出てこないという状況にあります。そのため、そういう世代のバトン渡しというのか、そこも課題ではあります。

○豊中市（福祉部長寿安心課） ICT見守りサービス、郵便極のつながりのところなのですが、ICT見守りサービスは、本当に最後のセーフティネットかなと思っていて、本当に倒れていたときとか、そういったときの状況になるのですけれども、もう一つ、市と民生委員のほうで行っているのは、独り暮らし高齢者登録制度というものを設けておりまして、独り暮らしになったときには、緊急連絡先を民生委員の方に伝える。民生委員の方は緩やかに見守りを行うということで、市にも報告いただくというところで、地域で緩やか

に見守っていただいているというところがあります。

何かあったときは、私たちも警察からの対応とかにも使って、本当に何かあったときとか、救急時の対応としても使っていたり、そういった方に安心キットという、救急車で運ばれたときに、病院とかに入って、そういったものを配付したりというところが、緩やかな事前の常日頃の見守りとして行っている事業かとは思っております。

○石田構成員 分かりました。ありがとうございました。

○大西参与 勝部さんも質問がいかがでしょうか。

○勝部構成員 ありがとうございます。では、質問ですけれども、身寄りのない高齢者支援事業が、今、国の方でも、新日事とかいう名前で、いわゆる承認とか、それから死後事務とかの話で、どうなっていくかという話があるのですけれども、この補助制度というのは、それに先行して実施するのでしょうか。

○豊中市（福祉部長寿安心課） 実は始めるときに、どこまでそれを広げるかと、内部で議論なりまして、今、並行して地域行政課のほうで、身寄りのない方の死亡事務委任とか身元保証だとか、国が言っていることをどこまでやるかの検討をしているので、あえてここは限定的な形で先行して始めたところになります。

今年の8月から始めることで、いろいろな課題が出てくるかと思うので、そういったところを生かしながら、次年度はどういった形が出て、検討をまた庁内でしていきたいと思っております。

○勝部構成員 例えば、これは8月からということなので、もうかなり形ができているのですよね。

○豊中市（福祉部長寿安心課） そうです。今、ちょうど事業者の募集を行っていて、そろそろ決定した上で、7月には皆様に周知する形で行っていこうとは思っております。

○勝部構成員 お金のある方と、ない方と、いろいろな方があると思うのですけれども、その辺がどのようなイメージなのでしょう。

○豊中市（福祉部長寿安心課） 今回は、始めるときも所得要件を設けるかというのは、非課税だけにするのかという議論もあったのですけれども、それは課税、非課税問わず費用は、今年においては、かからず利用できる形になるかと思っております。

○勝部構成員 誰かが身寄りの代わりになって、代わりにおうちを開けたりとか、そういったことは想定しているのでしょうか。

○豊中市（福祉部長寿安心課） 鍵を開けたりまではないのですけれども、何かあったときに、ヤマトさんからの通知が身元保証会社とか、事務所を主体に、身元保証会社というのが候補として挙がっているのですが、そういうところに連絡があって、その方が緊急連絡先とか、行きそうな病院とか、知り合いに電話をかけて、それでもはけなかったら、ヤマトさんにも行ってくださいということで、ヤマトさんが現地に駆けつけて、さらに確認した上で、状況に応じて消防や救急を呼んで、家を開けるという形になるかとは思います。

○勝部構成員 はい、分かりました。

○大西参与 では、僕からも質問をさせていただいてもよろしいですか。

冒頭の自治組織の再生みたいなのは、すごく面白いなと思いつつ、若い人にどう関わってもらえるのかというところで、どんな工夫をされているのかお聞きしたです。また、緊急連絡先の問題について、自分のNP0で僕も1,300世帯ぐらい緊急連絡先をやっている、まさにこの携帯でやっているのですけれども、結構大変なのです。入院とか、いろいろな問題が起きて。だから事業者さんがどの程度できるか、範囲の問題ですが、サービスとしてできる範囲の部分と、それ以外の部分、もしかしたら地域の方だったり、NP0とかのほうで、価格を設定してしまうと、その範囲でしかやらなくなってしまうという、また難しい問題もあるではないかと思うのですが、その辺りのバランスをどう考えているのかというのを、少しお聞きしたいなと思います。それぞれお願いします。

○豊中市（市民協働部地域連携課） まず、若い世代の取り込みというところで、ある校区の事例ではありますけれども、その校区では、若いお母さんたちに意見を聞いたところ、やはり日頃の子育てで疲れてもんもんとしているという現状があったと。その校区では、まさにそういう子育て世代に対する対応が課題と設定されまして、そこからは、若い人たちがしたい取組、それについて、地域自治組織として財政的にも体制的にも協力するということで、だから、今は、どんどん新しいアイデアが出てきまして、年に2回ではありますけれども、若いお母さんたちが、マルシェという形で企画されたり、今度は、おやじの会で、お父さんたちが学校側の畑を耕したりとか、そういう事例もあります。

今、1ページ目に書いています「地域の大会議」、これは1回目の内容なのですけれども、また、この7月に2回目の開催予定で、ここでも高校生であったり、大学生、そういう人づてに、そういう若い世代の考えを聞いてみようではないかというところで、お越しいただいて話をさせていただくのですけれども、確かに、小学校、中学校というのは義務教育で、その校区にいるのですけれども、高校になってしまうと、他高校に行ったり、大学に行くと他地域に行ったり。

○大西参与 電車に乗ってね。

○豊中市（市民協働部地域連携課） はい。再びUターンのごとく地元に戻ってくる人もいるのですけれども、やはり若い世代に今後の地域の将来を考えてもらい、取組に反映したいという思いがありますので、そういうのを仕掛けながら、今、進めております。

○大西参与 ありがとうございます。

○豊中市（福祉部長寿安心課） ICTのほうは、資料の8ページ見ていただけたらと思うのですけれども、あくまでも、今回、本当に限定的な事業の拡充にはなっておりまして、サービスについても緊急連絡先としての通知を受けるのみになるので、その後、救急車で搬送されたら病院に入院できるように、緊急連絡先は誰になるという問題であったり、また、いろいろな契約ごとをしたり、最初は、例えば、家の引き払い、葬儀とかの問題があったときまでは、今回の補助制度には含んでおりませんでして、ただ、何も言わないと、きっとこういう課題も出るだろうなということは、既に想定はしていますが、今のところは、そ

ういったことができる事業者ということで公募して、そこは自費でも契約していくことになるかと思うので、正直できる人と、できない方というのが出てくるのではないかなと思うので、今後は、そこを含めてどうサービスを組み立てているというのが、次の段階に私たちが考えていけないといけないところかなと思っております。

○大西参与 ありがとうございます。すごくチャレンジングな事業だなと思います。

実は、年間で喪主を何件かやるので、そういう担い手が地域の中で、どういう人がやるべきかも議論がより盛んになるといいなと。

○勝部構成員 私ども直葬の立ち合いは、年間に相当やっていますが、地域のことと、お別れ会とか、入院とかのときに、お独り暮らしで身寄りがない人で入院させないといけないというときに、保証人がいないと駄目ですとか、連絡先がないと駄目ですと、名刺を置いて帰ってくるのですけれども、名刺を置いたら、すぐにその日の夕方に電話がかかってきて、ほかの部屋に歩いていっていますとか、必ずのように、そういうことがあったりとか。

○大西参与 ちょっとあれを取ってきてとか、いろいろなことがね。

○勝部構成員 大変難しい事業だなと。

○石田構成員 ヤマトさんとか、郵便局とかは、発見の感度を高めると、運ばれた側の病院が苦勞してしまうというところもあると思うのですよ。結局は、身寄りがないけれども、引き受けてしまったら、やはり最善を尽くして治療をしなければいけないし、でも、治療の後、どうなるのだとか、お金は結局誰が払ってくれるのかという問題は出てきてしまうので、発見の感度を高めるほど、医療の現場は逼迫するという矛盾が出てきてしまうのかなと思うのです。その辺りは、問題は生じてきてはいないのですか。

○豊中市（福祉部長寿安心課） 今のところ、ほかにも安否確認ホットラインということで、何か近所の方が、この人は心配だなと思った場合に市の職員が行って、救急車を呼んだりとかはあるのですけれども、そういうので医療を圧迫するというお声は聞いていないのですが、高齢者も増えているので、今後は、そういった声も出てくると思うので、その次のところを考えていけないといけないかなとは思っております。

○友納政務官 現状について、看護師の側からお話させていただくと、逼迫しているという状況ではないと思うのですけれども、この問題は出てくると思うので、理想は地域で看取りがちゃんとできるような環境をつくっていくというのが一番理想だと思います。確か1月に視察したノビシロハウスの辺りは、なるべくそれをしたいと、できるだけの看護とか診療を同じスペースに、同じところであって、それで高齢者の住宅があつてと。本当は理想は、最期を孤独に独りで、緊急に呼ばれるのではなくて、多分、地域できちんと看取りをいつでもできるというのが理想かなと思います。ただ、今、その通報で逼迫しているというのは、単身高齢者が来て、病院で退院させられなくて、ずっと病院で抱えていて大変だという話がありますけれども、それが通報の感度が上がったからというところまでは、まだ、話は至っていないのかと思います。

○勝部構成員 午前中でお話があったような地域のつながりで、支えられる人は相当支えていて、そこから、やはりそこにもつながりにくい人とか、緊急連絡先がないことでつながることを戸惑っているとか、そこにブレーキがかかっている人向けに、今回のことをやっていこうと思って、そういう方々がつながることを、積極的に選べないということに対しての、今回のアンサーという感じだと思います。

これが、また、あまり進んでいくと、今、つながっていた人たちも切れていくみたいな、お金で解決できるならとなっていくと、また、さっき石田先生がおっしゃったようなことが出てくるかもしれない。

○大西参与 議論は尽きないですけども、テーマ的にも、一旦ここで区切らせていただきます。豊中市さん、ここまでありがとうございました。それでは、次の議題に移りたいと思います。

本日は、ここ豊中市を訪問させていただきして、本当にありがとうございます。

退職後の男性の居場所である豊中あぐりなどを視察させていただいたほか、豊中市の方々とも意見交換をさせていただきました。大変実りのある視察だったかなと思います。

印象が新鮮なうちに、フレッシュなうちに、ぜひ皆さんで、本日の感想や視察の成果について意見交換ができればと考えております。

ぜひ本日の感想、学んだ点について、それぞれ自由にコメントをいただければと思っております。

お手元に、本プロジェクトにおける論点のペーパーがあります。この参考資料のところですね、これもぜひ御参照いただきながら、論点に沿って御発言いただいても構いませんし、自由に発言いただく形でも構いません。

それでは、まず、今回の視察をホストしていただいた、コーディネートしていただいた勝部さんから、ぜひいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○勝部構成員 ありがとうございます。

都市部で、そんなに、いわゆる昔からつながりがあるような人たちではない人たちを、どのようにして、しがらみではなく、つながりに変えるかみたいなことで、挑戦ということやってきたことについてのお話を、今日いただいたのですけれども、無事ですシートであったり、個人情報にあまり入り込まない範囲で、自分でできる範囲のSOSの出し方であったりとか、最低限自分が困ったときの安心キットでの伝え方であったりとか、都市部ならではの、いろいろ個人情報に配慮した取組みみたいなことを、大分いろいろな方々の話で聞いていただけたかなと思うのです。

一方で、やはり人材がいけないということを言っているのですけれども、私もこの間から、例えば高齢者の方々に食事サービスをしたりとか、会食会をしていた人たちのグループがあったのですが、若い人が入りませんと言っていたのですけれども、でも、PTAの中でも手挙げ方式で参加してくれる人が出てきたり、やはりやってみたら、こんなことぐらいできるのではないかという人が出てきたり、うたごえ喫茶の話がありましたけれども、あそこの

チームに、お野菜切るだけの人がほしいのですとかと言ったら、行きますと言って手が拳がったみたいで、やはりきっかけが何かあれば、誰かのために何かしたいという人たちはまだまだいて、そこへのアプローチというのは足りないなという感じはしているので、これから、どんなやり方をしていくのがいいかなとは思いますが、まずは、楽しいことであったりとか、皆さんが関心のある切り口からつながることで、そこに少しプラス誰かのために加わっていくと、それでもすごくお互いに幸せになれるようなことがあるのかなというところでのアプローチをいろいろとさせていただいているかなとは思いますが。

あと、定年後の男性の取組は、なかなかやはり今までうまくいった成果を聞いていなかったのですけれども、今日みんな元気そうでしたね。180人もあんなことをしている人がいると、最初だから週1回でいいですと言っているのですけれども、何か野菜が育つのを毎日見に行かないと。

○大西参与 お勤めみたいだね。

○勝部構成員 そういう何か生き物との関わりみたいなことが、面白い仕掛けだなと思っているのですけれども、あのメンバーが、結果として、そこにとどまらず、子供の支援であったりとか、個人の支援であったり、音楽だったりとか、便利屋さんとか結構あるので、何か新しいコミュニティーの、昔でいうところの虎の穴のような、そういう場所を新たに考えていかないと、突然、住んでいるからといって、いきなり地域にぽんと入れるわけではないので、その面仕掛けが何かできると、きっと何かをやりたいと思っている人は多いので、そんなことをいろいろ考えきたところを見ていただければなと思いますが、実際に楽しんでいる人がいっぱいということを見ていただけて、今日は暑い中、ありがとうございました。

○大西参与 ありがとうございました。

では、石田先生、お願いします。

○石田構成員 今日は、本当にいろいろと御審議いただきまして、ありがとうございました。

本当に一つ一つすばらしい試みだなと思いながら、私も拝見しておりました。やはり最初に一番印象に残ったというか、感じましたのは、やはり、それぞれの地区に勝部さんのような方がいることが、いかに重要かということが、すごく切実に感じまして、やはり行く先々で勝部さんに、こういう形で声がけをされたという話が出てくるので、本当にタイミングのいいところで、いかに声かけをするかということと、あとは、やはり継続的に声をかけ続けられる人がいるのかどうかという、それによって地域の人たちが、それこそ、半ば眠っているような、閉じたような感じの人たちがオープンになるというのは、そこがすごく大事なのだなという感じがしました。そこで引っ張っていったら、あとは、ある程度自走していく部分はあるのかもしれないのですけれども、やはり自走するまでの、そこがすごく長いし、また、個人個人によってそのタイミングは違うから、恐らくすごく継続的に声をかけをなさってきたのだらうなと思いますので、そういった試みの重要さというのは、

改めて認識をいたしました。

本当に、今日はありがとうございました。

○大西参与 では、私からも発言したいと思いますが、前に、豊中に来たのが、何年前ですか、3、4年、コロナの後だったと思うのですけれども、来させていただくことがあって、いろいろ拝見したことがあって、そのときは、ずっとプライベートで勝手に来て、一日いろいろ御案内いただいたのですけれども、そのときよりも活動がどんどん広がっているなっているなど、あのとき多分、まだ10か所もなくて、空港の近くで何か田んぼをやるのだという話をしたりとかなので、あと、酒をつくるみたいな話とかすごくこの数年でどんどん活動が広がっていて、石田さんがおっしゃられたように、やはり勝部さんがいろいろ声をかけて種をまいたところがどんどん広がっているという、このネットワークを、まさに、どのようにほかの地域でも広げていけるのかなとか、また、それをどのように、みんなで応援できるのかなというのは、1つの宿題かなと思っています。

でも2つぐらい気づきとしてあったのは、皆さん、本当に楽しそうでしたね、やはり楽しくなかったら続かないのではないかと、何か義務になってしまうと何か、やはり楽しいのはすごく大事で、楽しいことをすごくつくられているなというのもすごく印象に残って、その人が持っているエネルギーをうまく楽しいことにつなげていくという、アイデアをどんどん伸ばしていくということが、結構ポジティブなエネルギーをどうつくっていくのか、世の中、少しネットでたたかれたりとか、ネガティブなことがありがちではないですか、いろいろなチャレンジをすると、やはりどうポジティブにつくっていくのが大事なのかなというのが1つ。

2つ目は、やはりみんな頼られると頑張るなど、これもすごく大事ななと思います。やはりもっとみんな頼っていい、我々も受援力とかで言うと、助けてと言っている話なのですが、もっとこちら側が頼るのもすごくいいのではないかなと、頼ると頼られるみたいな、何か相互作用があるのかもなというのは何となく、まだ僕もうまく言語化できていないのですけれども、すごくたくさんの学びをいただいた思いであります。改めて本当にありがとうございました。

○勝部構成員 助けてということが、世界で一番言えるのではないかなと思って。

○大西参与 自分がね、そうですね。すごく大事ですね。

○勝部構成員 昨日も野菜をみんなが持って集まる時間とか、大変だといって集まってくるし、お米を精米に行くチームとか、これが制度になってしまうと、指標とかになって。

○大西参与 どんな効果があるのかとかね。

○勝部構成員 ふざけてはいけないみたいな、その辺りが楽しいことと、制度として進めていくところみたいなものが。

○大西参与 バランスというかね、違うベクトルの部分もありますね。

○勝部構成員 結果として、例えば、会合を行ったりとか、結果として、人を助けることになっていますということがあるのですけれども、それが目的になると、また仕事みたい

な感じになってしまうし、義務ではない中で、みんなに喜んでもらえて、自分も楽しいと、そんなことが、今日、私は大臣がおっしゃっていた、役割が大事とおっしゃっていたことが本当にそうだなと、全ての人に自分が見ていて安心な場所とか、役割がそこに行ったら、みんなに期待される、ホームページをつくっている、もう何回も下手なものですかと、下手なものだと言いながら見せていると、ああいう感覚が、自分がと思えるようなものを、出番をつくると。

○大西参与 この流れで、友納政務官と三原大臣にも、ぜひ感想をと思うのですけれども、結構時間が押してしまっていて、軽めにお願ひできますと。

○友納政務官 では、本当に簡単に。一日ありがとうございました。

私が話そうとしたのは、勝部先生の立場の人を育てなくてはいけないという話は、今もう出てしまって、あと、若手の働きかけというのも、さっき言っていただいたので、同じような感想なのですけれども、勝部先生のような立場の方を増やさなければという、多分、今回の構成案で、次のタイミングで、この担い手のところで、もう少し担い手を広げて、この立場の人を育てるという話だと思いますので、今回は、そこだけにして。

それで、若者への働きかけは結構難しいなと思っていて、自分が30代、今、40代ですけれども、30代のときに大きなマンションに住んでいて、自治会に参加してと言われても、いや、仕事は忙しいし、面倒くさいなと思っていた人間なのですよ、だから、そこをどうやって巻き込むのかなと思いましたけれども、先ほど豊中市の方からの御回答を聞いていて、結局、最初の目的、手段という話をしましたけれども、目的的には将来の孤独・孤立対策なのかもしれませんが、その手段として、今、楽しい、自分たちがやりたい若いお母さんとしてとか、そういう企画をする中で、自然と将来目指している目的の解決とか、課題の解決につながっているという手段の部分でいろいろな選択肢をつくっていくのは、1つ大きいことなのかなと思いました。

もう一点、車で話していたのですけれども、スウェーデンの方が来て、日本の問題を大きくずばっと、助けを求める声を、大変なのだねというのが、すごいなと思って、ずばっと日本の問題点を、受援力の問題だと思いますけれども、それをおっしゃったのはすごいなと思って聞いていました。

なかなか、それが先ほどの例えば道德の教科書を見たら、声をかけましようみたいなことが既に書いてある中で、教育でどうにかなる問題なのか、助けの声を上げるということをお子供たちにも教えていく、上げていいのだということをお教えるためには、どうしていけばいいのかなというのは、難しいなとは思いますが、そこは少し考えていく必要があると思いました。

以上です。ありがとうございました。

○大西参与 では、三原大臣、お願いします。

○三原孤独・孤立対策担当大臣 申し上げたいことは皆さんから言われてしまいましたが、1つだけ、やはり定年になって放り出すという社会はちょっと違うなと思いました。

皆さん、分かってはいても、現役のときはやはり仕事に追われて突っ走ってくるので、定年になって急に、明日から何したらいいのだろうという状態をつくってはいけない。

そして、もう一つ、やはりとてもいい方に恵まれて、つながりがあって、両親というか、そういうものに頼るだけでは済まない農地とか、空き家の問題とか、これは国として何ができるのだろうということを考えたのですね。

先ほどおっしゃっていただいたように、制度とか、検証、EBPMみたいな、そういうところになると、これは国としてどうなの、合わないじゃん、ということになり、楽しさはなくなってしまう。国としてできること、お金、予算ということになるのだろうけれども、そこをもう少し詰めて教えていただけるようなことが見えてきたら良いと思いました。以上です。

○大西参与 ありがとうございます。それでは、少し時間も押しておりますので、最後の議題である本プロジェクトチームの取りまとめ構成案に係る意見交換に移りたいと思います。

本議題については、今後の取りまとめに向けて忌憚のない議論を行いたく、非公開で実施をしてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

○大西参与 ありがとうございます。

それでは、大変恐れ入りますが、ここでプレスの皆様は御退出をいただき、廊下でお待ちいただければと思います。お願いします。

（報道関係者退室）

【とりまとめ構成案に係る意見交換を実施】

○大西参与 では、締めくくりに、三原大臣から一言いただきたいと思います。

○三原孤独・孤立対策担当大臣 豊中市役所の皆様、貴重なお話をいただきまして、今日は本当にありがとうございました。こうしたことを、しっかりと成果として取りまとめていきたいと思います。ありがとうございました。

○大西参与 ありがとうございます。

次回の会合については、改めて事務局から御連絡いたします。

本日の会議は終了いたします。ありがとうございました。